

## 関西造船協会創立九十周年記念誌「航跡」の刊行にあたって

本年（2002年）関西造船協会は創立90周年を迎え、その記念事業の一つとして、記念誌「航跡」を刊行することになりました。本協会は、1912年（M45）5月5日に阪神在住の造船・海運関係の先輩諸氏により将来の日本造船界の発展を期して、「造船協会阪神倶楽部」として設立され、爾来、関西造船界の中核の倶楽部として、会員相互の友好的な連帯のもとに運営、発展してまいりました。その後、日本造船界のほうも年々飛躍を重ねて、1956年（S31）には英国を抜いて建造量世界一に、さらに1973年（S48）には進水量が世界の五割に達して「造船国日本」の名を世界に誇示しました。

二十世紀は、社会的、経済的ニーズであった多種多様な製品やその原料の大量輸送の時代でありましたが、それらの大部分は船舶による海上輸送によりなされました。それを提供してきた日本造船界の発展の歴史は、日本のみならず世界の社会、経済の発展の歴史といっても過言では有りません。例えば、オイルタンカー、バラ積み運搬船、自動車専用船、LNG船、コンテナ船などの新しい船舶がつぎつぎに建造され、大型化、専用化、高速化、自動化が図られました。常にその時代の発展に貢献をしてきた日本の造船技術は遅く、且つ素晴らしいものであったとすることが出来ます。この基盤は、産学官の協同研究と各造船所の絶え間ない技術革新、例えば、溶接、ガス切断、ブロック建造、大量生産方式、先行艀装、品質管理、合理化等の建造技術、流体力学的船型設計技術、コンピュータ関連技術にあったといわれます。しかし、造船技術発展の真の担い手は、これらの技術を生み、育て発展させようと汗と油にまみれて奮闘してきた多くの「技術者」と良きパートナーの「営業マン」であったことを忘れることは出来ません。我が国造船界は二度のオイルショックと構造不況を経て体質が弱体化し、新しいシステムの構築が望まれ、実行すべき時に来ています。しかし、古き良き技術は忘れ去られるのみではなく、その形を変えながら新旧混合して新しい概念に生まれ変わり、新しいシステムの中に再構築されて行くことが必要であります。この意味で先達の辿った歴史を次世代に伝え、有効に活用して行く事こそこれからの時代に極めて大切なことと考えます。

90周年記念誌「航跡」は、多くの会員の方々に親しみを持って読んでいただける「残しておきたい先輩技術者体験談」とすることにしました。戦後の船舶・海洋関連技術の発展を支えたさまざまな製造技術、設計技術、コンピュータ技術、営業戦略…等に関する個人的実録を、その誕生から育成、実用化にいたる苦勞談、失敗談をまじえながら大いに語って頂くべく諸先輩にお願いしました所、快くご賛同を得て執筆頂き出来上がったものが本書であります。

日本でも漸く社会全体がグローバル化に対応できるシステムへと変革の時を迎えています。戦後すぐに国際市場に登場した日本造船業を支えた先輩諸氏はこの意味でも時代のリーダーであったと言えます。今この変革の時に際し、希望に燃えまたは不安に悩む若い技術者たちに、この臨場感溢れる体験談が、「船匠（たくみ）たちから次代への伝言」となり、新しい展開の動機になれば真に嬉しく思います。

最後に、御執筆にあたられました諸先輩のご苦勞に対し衷心より感謝申し上げます。

2002年（平成14年）1月1日

関西造船協会  
会長 小野 靖彦